

授業科目名	在宅看護概論	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(保健師・MSW)・専任教員	時期	2年次 1学期
科目目標	1.在宅看護の目的と特徴を理解できる。 2.在宅看護の制度を理解できる。 3.在宅療養につなげる病院内の看護が理解できる。 4.在宅における他職種との連携やその中での訪問看護師の役割を理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	在宅看護の目的と特徴	講義	
2・3	1)在宅看護の歴史 2)在宅看護にかかわる現状 3)在宅看護の目的 在宅看護の対象者	講義	
4	1)対象者の特徴 2)在宅看護の対象者としての家族 3)家族へのかかわり・支援 4)家族理解と支援に関する主な理論 (家族発達理論、家族システム理論、家族アセスメントモデル)	講義	
5・6	在宅看護の役割と提供方法 1)在宅療養の支援:在宅看護の提供方法 2)在宅看護における倫理的課題(訪問時マナー、在宅看護を行う者としての姿勢を含む)	講義	
7・8	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 1)在宅看護にかかわる法令・制度(介護保険制度・医療保険制度・障害者総合支援法) 2)地域包括ケアシステムの意義と構築のプロセス(多職種連携) 3)在宅看護における社会資源	講義	
9	訪問看護の概要	講義	
10・11	1)訪問看護制度の法的枠組み 2)訪問看護サービスの仕組みと提供 3)訪問看護の役割と機能 4)訪問看護ステーションの特徴 4)在宅看護における権利保障	講義	
12・13・14	在宅看護過程の展開(在宅看護介入時期の特徴) 在宅看護(訪問看護)におけるリスクマネジメント 在宅看護の提供方法の実際(施設見学含む)	講義	
15	1)ケアマネジメントと社会資源の活用 2)地域における多職種連携 3)療養の場への移行:退院支援・退院調整 修了試験	施設見学 筆記試験	
履修上の注意	・関連科目:医療と福祉、小児看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論		
備考			

授業科目名	在宅看護方法論 I	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(看護師)	時期	2年次 2学期
科目目標	1.在宅看護の基本となる姿勢,考え方を理解できる。 2.在宅で求められる看護技術が理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	活動の制限のアセスメントと生活行為への支援	講義	
2	在宅看護過程の特徴・アセスメントの視点	講義	
3	呼吸機能・食生活に関する在宅看護技術	講義	
4	排泄・移動・清潔に関する在宅看護技術	講義	
5	認知機能のアセスメント法と援助技術	講義	
6	在宅における終末期看護の特徴	講義	
7	在宅での看取りの技術(死後の処置含む)	講義	
8	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 押川眞喜子監 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 【参】系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院		
履修上の 注意	・関連科目:在宅看護概論、生活援助論・技術 I ~ III		
備考			

平成31年度 授業概要

授業科目名	在宅看護方法論Ⅱ	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(看護師)	時期	2年次 2学期
科目目標	1.在宅における医療管理を要する人の看護について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	褥瘡の予防と発生時のケア	講義	
2	尿道留置カテーテルを適応している療養者への看護	講義	
3	ストーマ(人工肛門・人工膀胱)をもつ療養者への看護	講義	
4	在宅中心静脈栄養法(HPN)の管理方法と導入・維持期の看護	講義	
5	非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)を用いる療養者への導入・維持期の看護	講義	
6	在宅酸素療法(HOT)を用いる療養者への看護	講義	
7	疼痛緩和ケアを受ける療養者への看護	講義	
8	修了試験		
評価方法	筆記試験等にて評価する		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 押川眞喜子監 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ 【参】 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
履修上の 注意	・関連科目：在宅看護概論、基本援助論・技術Ⅲ、生活援助論・技術Ⅰ、 生活援助論・技術Ⅳ、診療援助技術Ⅱ		
備考			

授業科目名	在宅看護方法論Ⅲ	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	教員	時期	2年次 2学期
科目目標	1.対象(療養者とその家族)を支える為に、多職種と連携、協働して役割を果たす必要が理解できる。 2.対象を生活者として捉え、効率・安全性を踏まえ個性・QOLを踏まえた援助を考えることができる。 3.対象に応じた看護実践を行うための思考過程、看護技術を習得できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1～9	1.在宅看護における看護過程の展開 事例<筋委縮性側索硬化症:慢性期看護> 1)在宅療養者の看護に必要なアセスメントの視点 (1)本人機能アセスメント (2)家族機能アセスメント (3)社会資源アセスメント (4)多職種との連携 2)訪問看護計画立案 (ケアプラン、訪問看護計画)	講義	
10	訪問看護計画 (ケアプラン、訪問看護計画)の発表	講義・演習	
11・12	計画修正	講義	
13・14	在宅における日常生活援助の演示 ・在宅にある物を使っての日常生活援助	講義・演習	
15	まとめ	講義	
評価方法	レポート等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 押川真喜子監 写真でわかる訪問看護 アドバンス インターメディカ		
履修上の 注意	・関連科目:在宅看護概論、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ、医療と福祉、成人運動障害時の看護		
備考			

授業科目名	看護と研究	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)・専任教員	時期	3年次 1学期
科目目標	1.看護研究の意義と目的を理解できる。 2.看護研究の種類と研究計画立案方法を理解できる。 3.研究に必要な文献検索および文献検討の方法を理解できる。 4.臨地実習で行った看護をケーススタディを通して振り返ることができる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 看護研究とは	講義・演習	
2	1)研究の意義と目的		
3	2)看護研究の倫理的配慮の必要性	講義・演習	
4	3)研究テーマの発見の仕方:文献検討	講義・演習	
	4)研究の種類	講義・演習	
	5)研究のプロセス	講義・演習	
	(1)研究の枠組み		
	(2)仮説		
	(3)用語の操作的定義		
	(4)研究デザイン		
	(5)対象の選出		
	(6)分析方法		
5	6)研究計画書作成の目的と概要	講義・演習	
6	7)研究のまとめ方と発表方法	講義・演習	
	2. ケーススタディ(事例研究)とは		
7	1)ケーススタディの意義と目的と方法	講義	
8	2)ケーススタディのプロセス(企画と準備、レポート作成、発表)	講義	
	3. レポート作成と発表		
9	1)テーマの選定	講義	
	(1)看護実践の振り返り		
	(2)テーマの焦点化		
10	2)研究計画書の作成		
11	3)文献検索の実際	演習	
	4)テーマに対する看護の振り返り		
12・13	(1)テーマに関連した看護問題とアセスメント	演習	
14・15	(2)援助の実際	演習	
	(3)文献に基づいた検証・考察		
	(4)ケーススタディの提出		
評価方法	概論: レポートおよび課題提出による評価(50点配点) 実技: ケーススタディのレポート(内容および提出状況)(50点配点)		
必須図書 参考図書	【必】看護学生のためのケーススタディ メジカルフレンド社		
履修上の 注意	レポート提出日時、記載要領を厳守する。		
備考	成果として全体で発表する。		

授業科目名	看護管理	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤職員(看護師)	時期	3年次 1学期
		1.管理の基本概念および看護管理の概念が理解できる。 2.看護管理の過程が理解できる。 3.看護業務に関連する法規および社会保険制度について理解できる。	
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 看護とマネジメント	講義	
2	2. 看護ケアのマネジメント	講義	
3	1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重	講義	
4・5	3)チーム医療 4)看護業務の実践(日常業務のマネジメント)	講義	
	3. 看護職のキャリアマネジメント		
	4. 看護サービスのマネジメント		
	1)看護サービスのマネジメント		
	2)組織目標達成のマネジメント		
	3)看護サービスの提供のしくみづくり		
	4)人材のマネジメント		
	5)施設・設備環境のマネジメント		
	6)物品のマネジメント		
	7)情報のマネジメント		
	8)組織におけるリスクマネジメント		
	9)サービスの評価		
6	5. マネジメントに必要な知識と技術	講義	
7	6. 看護を取り巻く諸制度	講義	
	1)看護職の定義と法的責任と教育制度		
	2)看護政策と制度		
8	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書	【必】 系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院		
履修上の 注意			
備考			

授業科目名	医療安全	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤職員(看護師)・専任教員	時期	3年次 1学期
科目目標	1.医療現場における危険因子を理解し、医療・看護を提供するためには医療事故防止が必要であることを理解できる。 2.医療および医療組織における事故防止に関する看護師の責任と役割を理解できる。 3.危険認識力(リスク感性)、危険回避のための判断力を養うことができる。		
回数	授業内容	教育方法	
1・2	1. 医療安全、事故防止の考え方 1)医療事故とは (1)医療事故の定義・分類 (2)医療安全に対する国の取り組み 2)看護事故の構造 (1)看護事故防止の考え方	講義	
3・4・5	2. 医療の危険特性と事故防止 1)診療の補助の事故防止 (1)患者への投与、医療機器使用に内在する危険と事故防止 2)療養上の世話の事故防止 (1)場面別の危険因子とリスクアセスメント 3)即時性が求められる業務の危険因子とリスクアセスメント (患者間違い、多重課題、個人特性)	講義	
6	3. 医療安全とコミュニケーション	講義	
7・8	4. 事故防止のための対策 1)看護師の労働安全衛生上の事故防止 2)組織的な安全管理体制への取り組み システムとしての事故防止対策:医療安全、感染管理	講義	
9	5. 生活援助技術における安全(看護マネージメントの事例展開) 1)臥床患者の寝衣交換(輸液療法中) (1)危険因子とリスクアセスメント	講義	
10・11	2)臥床患者の寝衣交換(輸液療法中)	演習	
12	3)患者の状態変化、作業の中断、多重課題への対応 (1)看護の優先度の決定 (2)時間配分 (3)患者への説明・同意 (4)他のメンバーへの依頼	講義	
13・14	臥床患者の寝衣交換(輸液療法中)中の作業の中断、多重課題への対応	演習	
15	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等により評価する。		
必須図書 参考図書	【必】 系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院		
履修上の 注意	関連科目:基本援助論・技術Ⅱ、看護管理、診療援助技術Ⅰ		
備考			

授業科目名	災害看護	区分	統合分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(看護師)・専任教員	時期	3年次 1学期
科目目標	1. 災害看護の基礎的知識を理解できる。 2. 災害サイクルに応じた看護の役割を理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 災害医療の基礎知識 1) 災害医療の歩み 2) 災害医療・看護の基礎知識	講義	
2	2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1) 急性期・亜急性期	講義	
3	2) 慢性期・復興期 3) 静穏期	講義	
4	3. 被災者の特性に応じた災害看護の展開	講義	
5	4. 災害とこころのケア	講義	
6	5. 地震災害看護の展開 トリアージの実際	講義・演習	
7	6. 国際社会への協力と看護の役割	講義	
8	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書	【必】 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院		
履修上の 注意			
備考			